



学園花の村機関紙第88号

2015年12月3日(木)

編集兼発行人 松井道夫

TEL (0537) 24-0101

FAX 24-0242

F 436-0079

〒337-1065

野菜と共に半世紀

里山倶楽部 池 上 隆 之

大学で野菜を専攻してから今日まで、ほぼ半世紀となる。長かったような気もするが、この道一筋にこれまで過ごせたということは私にとっても幸せなことだと思う。

しかし世の中を見ると、半世紀の間に農業を取り巻く環境は大きく変化し、農家の後継者はほとんど減少し農業の衰退は目に余るものとなっている。なぜそうなったかと言えば、これは農産物の価格の安さからだ。人件費をはじめとした生産コストは上がっていると思われるのに価格が上がらないのは当然利益が出ない。なぜそんなことになってしまったのだろう。今の世の中は何でも安値競争で、赤字を出しても人より安く売ろうという風潮が激しい。物が有り余っている時代のため「とにかく買わせるために値段を下げる」という流れがあるように思える。こんな時代がいつまで

続くのかと思うのだが一向に変わらない。この

流れに農産物も飲み込まれてしまっているわけだ。私も会社を退職してからミニ百姓をし、無農薬野菜を作り、道の駅に出荷しているが「これだけ苦労して手間を掛けた野菜をなんでこんなに安い値段で売らなくてはならないのか？」と考えると馬鹿らしい気がする時がある。まじめに安心安全なおいしい野菜を作ってもそれに見合う価格では売れない。だから「これでは農業で妻子を養い生活することはできないな」と納得してしまう。長い間農家と付き合ってきたが、安く売れるものを作ろうとすれば、化学肥料と農薬に頼り、おいしさよりも見栄え良く、作りやすく収穫量の多い品種を選び、とにかく量を取ってコストを下げようということになる。そんな野菜は食べておいしいと思えないから、消費者も「野菜は食べないといけない」と思いながらも実際にはだんだん食べなくなってしまふ。なんでもそうだがいくら体に良いと言っても食べにくかったり、おいしくないものは長続きしない。たとえば今のネギはほとんど固くてまずいものが主流になっている。昔のような柔らかく中からトロリとしたおいしいぬめりの出

てくるような品にはなかなかお目にかからない。なぜかと言えば柔らかい品種は葉がだらりと垂れて白ネギにするのにも土寄せがしにくく作業性が悪い。又病気にも湿害にも弱く商品も首元のしまりが悪くバラけて見栄えが悪い。おまけに日持ちも悪い。見栄えが悪いから値段も安くなってしまふときているから農家も作りたがらないしお店も嫌がることになってしまふ。しかし若い人はおいしいネギを知らないから、ネギとはこんなものかと思っっているのではないだろうか？このような状況は野菜に長く携わってきた人間にはとても悲しく感じられる。「食」は人間にとって一番大切なものであるから、世の中の人にはもっと野菜に関心を持ち、知識を増やし、少々高くてもこだわりの持ったおいしくて安全な野菜を選んでたくさん食べ、健康な生活をしてもらいたいと思う。そのためには農業に携わる者が安心安全でおいしい野菜を適正価格で消費者に届けるような努力をしてたくさん食べてもらい、野菜の消費を伸ばし、それによって農家が暮らしていけるような方策を見出すことが非常に大切だと思う。その意味で私に出来ることは本当に限られてはいるが、長い間野菜にかかわってきた人間として、自分の経験や知識を出来るだけ伝えていくことが残された人生での私の使命だと感じている。

(略歴は4面に掲載します。)